

う。もつと部下にいろんなことを任せるようにすればいいのである。

本田技研工業の川本信彦社長の額の皺も二本とも綺麗である。しかし、じつくりと観察してみると、真ん中と下は綺麗だが上が少し弱いようだ。下の線は部下を育てる能力が優れていることを表している。つまり部下にやる気を起こさせる能力に長け、やる気が起きるような環境作りも頗るお上手というわけである。上の線が気になるところだが、川本さんの場合はさほど気にしなくて大丈夫である。目上に対して率直にものをいう性格だが、だからといってトラブルは起きないからこれも天賦の才といえるのでは。

クレティセゾン相談役の青木辰男さんの場合も、上の皺はないけれど下の線がくつきりしている。このように人は部下の育て方がきわめてお上手である。もう少しいうなら、青木さんのように一番下一本が見事に

くつきりと出ている人は、本当に部下を育て、やる気を起こさせることが出来る人といえる。

一般的な皺の見分け方は、たとえば一本が目立つ場合、その一本がものすごく優れていると思つて間違いない。逆にある一本が目立って弱い場合は、そこがマイナスポイントというわけではない。その人は、そこに重きを置いていないというわけだ。線が出ていないといつて心配する必要はない。心配しなればならないのは乱れた線が出ている場合である。この場合でも、それを戒めとすればいいわけだ、決して悲観する必要はない。

トーマン会長の北村恒夫さんは、一番下の線がいい。

日本郵船相談役の宮岡公夫さんは三本とも綺麗である。

鼻、額の次は耳である。

耳の形の一番はなんといいても新日本製鐵会長の齋藤裕さん。この耳の大きさは絶品である。

「易经」にこんな言葉がある。「古者君徳ヲ称賛スル必ズ諫ニ從ヒ言ヲ納ルルヲ以テ首ト為ス」

簡単に訳してみるならば「リーダーというものは必ず賢者の言葉を聞き入れる」ということだろう。

リーダーであれ、経営者であれそういう能力が必要である。

リーダーにこの能力がないと「国が乱れる」といわれたものだ。その能力を備えている人物は、耳をみればわかる。つまり、耳にこの能力の有無が出ているわけである。

東京電力相談役の平岩外四さんの耳も大きくて立派である。

その他には、NEC会長の関本忠弘さん、東京三菱銀行相談役の行天豊雄さんの耳も立派である。

一代で地位を築いた人や大企業のトップはそれぞれ立派な人が多い。そしてやつぱり鼻、額、耳の形が優れている。

(たけむら あきこ)